

NetSkateKoban

登録済みユーザ向け端末追加登録用

CSV フォーマット変換ツール

マニュアル (CSVIP3U)



目次

1 NetSkateKoban用CSVファイルフォーマット変換ツールについて	4
2 登録済みユーザ向け端末追加登録用CSVファイルフォーマット変換ツールについて	5
3 端末追加用CSV変換ツールのセットアップ	5
■インストール	5
■実行環境の設定	6
■MS SQL Server 2000 を使用する場合	7
■MS SQL Server 2005 を使用する場合	7
4 テンプレートファイル（変換元ファイル）のフォーマット	8
■UserTerminal.csv作成時の注意点	8
■UserTerminal.csvのフォーマット	10
5 データベースに登録されている情報のエクスポート方法	12
■DB→CSVエクスポート手順	12
■個別CSVファイルの利用	12
6 CSV変換対応表	13
7 端末追加用CSV変換ツールを実行する前に（データベースアクセスコントロールの設定）	14
■PostgreSQL（Windows）	14
■PostgreSQL（Linux系）	18
8 端末追加用CSV変換ツールの実行手順	20
■端末追加用CSV変換ツールの実行	20
9 NetSkateKoban上でのインポート手順	21
10 エラー対処	22
11 付録	24
■GLocation.csv：「場所」	24
■NLocation.csv：「ドメイン」	24
■Organization.csv：「所属」	24
■Terminal.csv：「ユーザ利用端末」	25

2006年4月12日発行

2006年4月26日第2刷発行 (CSVIP3U Ver1.0.1)

2006年8月31日第3刷発行 (CSVIP3U Ver1.0.1)

2006年9月29日第4刷発行 (CSVIP3U Ver1.1)

2006年11月2日第5刷発行 (CSVIP3U Ver1.1)

2007年8月20日第6刷発行 (CSVIP3UVer4.1)

株式会社 サイバー・ソリューションズ

〒989-3204

宮城県仙台市青葉区南吉成 6-6-3 ICR ビル 3F

TEL : 022-303-4012 FAX : 022-303-4015

URL : <http://www.cysol.co.jp/>

お客様問い合わせ用 E メールアドレス : net skate-sales@cysol.co.jp

1 NetSkateKoban 用 CSV ファイルフォーマット変換ツールについて

本ソフトウェアは、NetSkateKoban v4.1用の登録データを CSV ファイルで作成するための補助ツールです。利用者が用意した CSV ファイルを NetSkateKoban v4.1 の CSV→DB インポートで利用できる CSV ファイルに変換します。この NetSkateKoban v4.1 用 CSV ファイルフォーマット変換ツールには以下の3つの種類があります。

お使いの環境に合わせて適したツールをご使用ください。

名称	説明	KobanDB (Koban30DB) へのアクセス	入力ファイル一覧	出力ファイル一覧	制限
インストール時 初期データ登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール (CSVIP1)	NetSkateKoban の導入時に、あらかじめ準備した初期データを登録するために、NetSkateKoban 上でインポート可能な CSV ファイルを生成するためのツールです。	不要	UserTerminal.csv SensorInterface.csv SwitchPort.csv ※2	GLocation.csv NLocation.csv Organization.csv Network.csv User.csv Terminal.csv Sensor.csv Interface.csv Switch.csv Port.csv ※3	出力された CSV ファイルを NetSkateKoban 上でインポートする際には、データベースが初期化された状態である必要があります。
運用時 データ追加登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール (CSVIP2)	NetSkateKoban 上で現在運用中のデータベースへデータを追加するために、インポート可能な CSV ファイルを生成するためのツールです。ツール実行時に指定されたデータベースへ問い合わせを行い、その時点の KobanDB と整合性のとれた CSV ファイルを作成することができます。	必要 ※1			KobanDB へアクセス可能な環境上で実行する必要があります。各情報のキーとなるフィールドがデータベースに存在しないことが条件となります。(一部除く) ※2
登録済みユーザ向け 端末追加登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール (CSVIP3U)	NetSkateKoban 上で運用中のデータベースに登録されている「ユーザ」に対して、新たに端末を登録するために使用します。ツール実行時に指定されたデータベースへ問い合わせを行い、その時点の KobanDB と整合性のとれた CSV ファイルを作成することができます。	必要 ※4	UserTerminal.csv ※2	GLocation.csv NLocation.csv Organization.csv Terminal.csv ※3	KobanDB へアクセス可能な環境上で実行する必要があります。また、UserTerminal.csv に記述するユーザはすでに KobanDB に登録されているユーザに限ります。 ※5

- ※1 データベースへのアクセスに関する設定については、該当するツールのマニュアル内“データベースアクセスコントロールの設定”および“データ登録用 CSV ファイル変換ツールの実行手順”をご参照ください。
- ※2 詳細は該当するツールのマニュアル内“テンプレートファイル(変換元ファイル)のフォーマット”をご参照ください。
- ※3 各ファイルの詳細については、該当するツールのマニュアル内“付録”をご参照ください。
- ※4 データベースへのアクセスに関する設定については、該当するツールのマニュアル内“データベースアクセスコントロールの設定”および“端末追加用 CSV 変換ツールの実行手順”をご参照ください。
- ※5 詳細は該当するツールのマニュアル内“ユーザ情報のエクスポート方法”をご参照ください。

2 登録済みユーザ向け端末追加登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツールについて

登録済みユーザ向け端末追加登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール（以下端末追加用 CSV 変換ツール）は、付属のテンプレートファイル（CSV ファイル）を元に作成された CSV ファイルを NetSkateKoban の CSV→DB インポート機能に対応した CSV ファイルへと変換・生成するためのツールです。

本ツールは、NetSkateKoban コンソールをインストールした PC 上で実行します。

- ※ 本ツールにより生成された CSV ファイルは、その時点の KobanDB との整合性が取られています。ツール実行後にデータベースの内容を改変すると、CSV ファイルと KobanDB の整合性が失われ、インポートに失敗する場合があります。
- ※ 「ユーザ情報」、「場所」、「ドメイン」、「所属」以外の情報に関しては、データベース内に存在しないデータを入力する必要があります。上記の4項目に関してはデータベース内にデータが存在する場合は、そのデータがファイル変換時に優先して使用されます。詳細については“テンプレートファイル（変換元ファイル）のフォーマット”をご参照ください。

3 端末追加用 CSV 変換ツールのセットアップ

■インストール

NetSkateKoban コンソール v4.1 をインストールした PC 上に”CSVIP3U_***.zip”（***にはバージョン番号が入ります）を用意します。

この ZIP ファイルを NetSkateKoban コンソールがインストールされたディレクトリ内に展開してください。

展開先フォルダ内に以下のファイルが正しく保存されているか確認してください。

(例)C:\Program Files\NetSkateKoban_Console_Ver4\CSVIP3U

CSVImportPreprocessor3u.bat	（実行用 BAT ファイル）
koban_csvip3u.jar	（端末追加用 CSV 変換ツール本体）
UserTerminal.csv	（編集用テンプレートファイル）
UserTerminal(Example).csv	（テンプレートファイル編集例）
VERSION	（端末追加用 CSV 変換ツールバージョン参照ファイル）
lib/pg74.215.jdbc3.jar	（PostgreSQL 用データベースライブラリ）
config/db.properties	（データベースアクセス設定ファイル）

本マニュアル“テンプレートファイル（変換元ファイル）のフォーマット”を参考にテンプレートファイルを編集します。入力例は同梱の***（Example）.csv を参照してください。

■実行環境の設定

端末追加用 CSV 変換ツールから NetSkateKoban マネージャが使用するデータベースへアクセスするための設定を行います。

データベースについての設定は下記ファイルに記述されています。使用するデータベースの環境に合わせて適切に設定を行ってください。

```
CSVIP3U¥config¥db.properties
```

設定例

```
# DB_TYPE is PostgreSQL or MSSQLServer or MSSQLServer2005
DB_TYPE      = PostgreSQL  (使用するデータベースのタイプ)
HOSTIP       = 127.0.0.1   (使用するデータベースサーバのIPアドレス)

# default port number
# | db type          | port number |
# |-----|
# | PostgreSQL       |          5432 |
# | MSSQLServer      |          1433 |
# | MSSQLServer2005 |          1433 |
# |-----|
DBPORT       = 5432        (データベースへアクセスするためのポート番号)
DATABASE     = Koban30DB   (使用するデータベース名)
USER         = KobanUser   (データベースサーバへログインする際のユーザ名)
PASSWORD    = KobanPassword (データベースサーバへログインする際のパスワード)

# (e.g. SJIS or EUC_JP)
ENCODING     = EUC_JP

INIT_POOL_COUNT= 5
MAX_POOL_COUNT = 10
TIMEOUT      = 5
INTERVAL     = 1
```

標準では PostgreSQL を使用する設定になっています。

また、“ENCODING”の部分でデータベースとやり取りする文字のエンコードを指定することが出来ます。

PostgreSQL (UNIX 系、Windows 版)を使用する場合は“EUC_JP”に、MSSQLServerを使用する場合は“SJIS”に設定してください。

■MS SQL Server 2000 を使用する場合

MS SQL Server 2000 を使用する場合（MSSQLServer と設定する）、下記手順に従って MSSQLServer へアクセスするためのドライバを本ツールに適用する必要があります。

※サポートする MSSQL Server 2000 のバージョンは SP3a です。

- ①SQL Server 2000 Driver for JDBC Service Pack 3 を Microsoft Web サイトからダウンロードしてください。

URL:<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyId=07287B11-0502-461A-B138-2AA54BFDC03A&displaylang=en>

- ②上記ページ内の説明を参考に SQL Server 2000 Driver for JDBC Service Pack 3 を現在お使いの MSSQLServer に適用します。

- ③“CSVIP2/lib”フォルダ内に MSSQLServer のインストール先から下記3つのファイルをコピーしてください。

“インストール先フォルダ”¥Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC¥lib

msbase.jar

mssqlserver.jar

msutil.jar

■MS SQL Server 2005 を使用する場合

MS SQL Server 2005 を使用する場合（MSSQLServer2005 と設定する）、下記手順に従って MSSQLServer へアクセスするためのドライバを本ツールに適用する必要があります。

- ①SQL Server 2005 JDBC Driver を Microsoft Web サイトからダウンロードしてください。

URL:

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=E22BC83B-32FF-4474-A44A-22B6AE2C4E17&displaylang=en>

- ②“CSVIP2/lib”フォルダ内に SQL Server 2005 JDBC Driver のインストール先から下記のファイルをコピーしてください。

sqljdbc.jar

4 テンプレートファイル（変換元ファイル）のフォーマット

テンプレートファイルはそれぞれの情報を入力するためのフィールドに分かれています。

これらのフィールドはすべて"," (カンマ) で区切られています。

本ツールに付属するテンプレートファイルは以下の「UserTerminal.csv」です。

「UserTerminal.csv」

登録する端末の入力、およびその所有者を指定するためのファイルです。

また、上記の情報に加えて、端末の「場所」「ドメイン」「所属」の情報を入力することが可能です。

■UserTerminal.csv 作成時の注意点

- テンプレートを作成する際に、端末を登録するユーザを指定する必要があります。ユーザの指定時にキーとなるのはデータベースに登録されている「ユーザ名」(UserTerminal.csv 内 UserName フィールド) となります。

- テンプレート作成時にはあらかじめ NetSkateKoban の「DB→CSV エクスポート機能」でユーザ情報をエクスポートし、その情報を元に作成を行ってください。（“ユーザ情報のエクスポート方法”をご参照ください）

また、上記の情報に加えて、端末の「場所」「ドメイン」「所属」の情報を入力することが可能です。

- 以下のフィールドに関しては、インポート先のデータベースに同じデータが存在しないことが条件となります。

データベースに同じデータが存在する状態でインポートを行った場合、インポート実行時にエラーが発生し CSV ファイルの情報を正しくデータベースに登録することができません。

「MAC アドレス」(UserTerminal.csv 内 MACAddress フィールド)

- 以下のフィールドに関しては、データベース内に同じデータが存在した場合、データベースの情報が優先して使用されます。データベースの検索対象となるフィールドは以下のとおりです。

「場所」

「場所」の階層表記をもとにしてデータベースを検索します。各 CSV ファイル内の該当するフィールドは以下のとおりです。

UserTerminal.csv 内 [GLocPath]フィールド

「ドメイン」

「ドメイン」の階層表記をもとにしてデータベースを検索します。各 CSV ファイル内の該当するフィールドは以下のとおりです。

UserTerminal.csv 内 [NLocPath]フィールド

「所属」

「所属」の階層表記をもとにしてデータベースを検索します。各 CSV ファイル内の該当するフィールドは以下のとおりです。

UserTerminal.csv 内 [TermOrgPath]フィールド

本ツール実行時にデータベース内に同じデータが見つかった場合は、以下のようなメッセージが表示されます。

```
G-Location already exists in database:  
Path : ICR¥3F  
DisplayName : 3F
```

- ・テンプレート作成時にはその行の後半部分に空欄が続く場合でも、行全体で「全フィールド数-1」のカンマを入力する必要があります。カンマの数が足りない場合、変換時にエラーが発生する場合があります。

※Microsoft Excel®を使用して CSV ファイルを編集した際に、後半のフィールドが未入力の行について、その行の後半のカンマが削除されてしまう場合があります。

その場合は該当する行の未入力のセルにスペース（空白文字）を入力しておけば、カンマが削除されることなく、CSV ファイルを作成することができます。

※NetSkateKobanVer3.1以降では UserTerminal.csv ファイルの AllocatedIPAddress フィールドに対して複数 IP アドレスを入力することが可能です。

複数 IP アドレスを入力して生成した CSV ファイルは NetSkateKobanVer3.0 以前では利用できませんのでご注意ください。

■UserTerminal.csv のフォーマット

- UserTerminal.csv は下表の 20 フィールドに分かれています。
- 緑色で網掛けされているフィールドに関しては、“UserName” により参照される DB に登録されたユーザ情報が参照されますので、入力の必要はありません。
- 赤色で網掛けされているフィールドに関しては入力が必要となります。
- UserTerminal.csv では同じ行に記述されている情報は関連付いているとみなされます。よって、各ユーザは同じ行に記述された端末の所有者として登録されます。1人のユーザに複数の端末を割り当てる場合は、その端末の数だけ同じユーザ情報を各端末の行に記述する必要があります。
- フィールドの順番は以下のリストの順に固定となります。順番を入れ替えることはできません。

フィールド	説明	フォーマット	スペースの挿入	文字数制限
UserID	ユーザの従業員番号, 学籍番号など	指定なし	可	64
UserName	ユーザの氏名	指定なし	可	255
Kana	ユーザの氏名フリガナ	指定なし	可	255
MailAddress	ユーザの E メールアドレス	半角英数、アンダーバー “_”、ピリオド “.”、ハイフン “-”、アットマーク “@”	不可	255
Address	ユーザの住所等	指定なし	可	無し
TelephoneNo	ユーザの連絡先電話番号	半角数字、ハイフン“-”、括弧“(” “)”, アスタリスク “*”, シャープ “#”	不可	128
Memo	ユーザの備考	指定なし	可	無し
UserOrgName	ユーザの所属の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの “¥” は使用不可	可	255
UserOrgPath	ユーザの所属の階層表記	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
MACAddress	端末の MAC アドレス	MAC アドレス。コロン「:」で区切った 6 フィールド、2桁の 16 進数 (例 00:a0:6d:42:81:0a)	不可	17
TerminalName	端末の名称	指定なし	可	255
TerminalDescription	端末の説明等	指定なし	可	無し
AddressAllocation	IP アドレスの割当方式, dynamic か static	“Dynamic”、もしくは”Static”を指定		
AllocatedIPAddress	端末の IP アドレス	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数 (例 192.168.0.22)	不可	15

TermOrgName	端末の所属(所有)の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥” は使用不可	可	255
TermOrgPath	端末の所属(所有)の階層表記 ※変換時にデータベース内の「所属」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
GLocName	端末の(設置)場所の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥” は使用不可	可	255
GLocPath	端末の(設置)場所の階層表記 ※変換時にデータベース内の「場所」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
NLocName	端末のドメインの名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥” は使用不可	可	255
NLocPath	端末のドメインの階層表記 ※変換時にデータベース内の「ドメイン」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し

5 データベースに登録されている情報のエクスポート方法

“UserTerminal.csv”を作成するにあたって、DBにすでに登録されている「ユーザ」「場所」「ドメイン」「所属」の情報を参照する場合は、「DB→CSVエクスポート」機能を利用します。

■DB→CSVエクスポート手順

- ① NetSkateKoban コンソールを起動しユーザ情報をエクスポートする NetSkateKoban マネージャにログインします。
- ② 「ファイル (F)」メニューより「DB→CSVエクスポート」を選択します。
- ③ 「参照」ボタンよりエクスポート先のフォルダを指定します。
- ④ 「個別に項目を選択」のラジオボタンを選択し、「ユーザ」「場所」「ドメイン」「所属」のチェックボックスにチェックを入れます。
- ⑤ 「エクスポート」ボタンをクリックします。
- ⑥ 進捗ダイアログが表示されます。エクスポート処理が完了したら「閉じる」ボタンをクリックします。

■個別 CSV ファイルの利用

上記の手順を実行すると、エクスポート先に指定したフォルダ内に「User.csv (ユーザ情報)」「GLocation.csv (場所情報)」「NLocation.csv (ドメイン情報)」「Organization.csv (所属情報)」の4個のファイルが出力されます。それぞれのファイルを開き、データベースのデータを参照するためのキーとなるフィールドを、UserTerminal.csvへコピーします。

各ファイルごとにキーとなるフィールドは以下の通りです。

「User.csv」

端末を登録するユーザの“UserName”フィールドを、テンプレートファイル (UserTerminal.csv) の同フィールドにコピーします。

「GLocation.csv」

GLocation.csv内の“Path”フィールドを、テンプレートファイル (UserTerminal.csv) の“GLocPath”フィールドにコピーします。

「NLocation.csv」

NLocation.csv内の“Path”フィールドを、テンプレートファイル (UserTerminal.csv) の“NLocPath”フィールドにコピーします。

「Organization.csv」

Organization.csv内の“Path”フィールドを、テンプレートファイル (UserTerminal.csv) の“TermOrgPath”フィールドにコピーします。

6 CSV 変換対応表

以下の表はテンプレートファイルを元に各フィールドの編集を行い、変換ツールを実行した場合の変換対応表となります。

変換元の UserTerminal.csv から NetSkateKoban 上でインポート可能な4個の CSV ファイルが作成されます。

変換元ファイル	出力されるCSVファイル
UserTerminal.csv	Terminal.csv (「ユーザ利用端末」インポート用CSV)
	(*1)GLocation.csv (「場所」インポート用CSV)
	(*2)NLocation.csv (「ドメイン」インポート用CSV)
	(*3)Organization.csv (「所属」インポート用CSV)

7 端末追加用 CSV 変換ツールを実行する前に（データベースアクセスコントロールの設定）

端末追加用 CSV 変換ツールを実行した際に、指定したデータベースへのアクセスが発生します。この時、アクセス先のデータベースにおいて、端末追加用 CSV 変換ツールを実行する環境からの接続が許可されている必要があります。

本章では、データベースへのアクセス許可を行うための設定方法を説明します。

※使用中のデータベースが **MSSQLServer** の場合、または **NetSkateKoban** マネージャをインストール時にデータベースアクセスコントロールの設定を行い、すでに許可されている PC 上で端末追加用 CSV 変換ツールを実行する場合、以下の手順は不要です。

■ PostgreSQL (Windows)

(1) 認証の設定

- 付属ツール「**pgAdmin**」を起動し、「ファイル」メニューより「**pg_hba.conf**を開く」を選択します。
Pg_hba.conf ファイルは標準で、**PostgreSQL** をインストールしたディレクトリの **data/** ディレクトリに保存されています。
保存場所を指定し、ファイルを選択後「開く」ボタンをクリックしてください。
- バックエンドアクセス認証エディタが開いたらテーブルの一番下の空行をダブルクリックし、設定画面を開きます。
- 「可能」チェックボックスにチェックを入れ、
 型 : host
 データベース : Koban30DB
 ユーザー : KobanUser
 IP アドレス : 192.168.0.0/24
 方法 : md5
以上のように設定し、**OK** ボタンをクリックしてください。



※この設定例では、データベース「**Koban30DB**」にアカウント「**KobanUser**」を使用して「**192.168.0.0/24**」

のアドレスを持つホストから「md5」によるパスワード認証を使用してアクセスできる設定となります。

- ローカルホストからのアクセスに関する設定を変更します。
「方法」のドロップダウンメニューより「trust」を選択してください。また、「ユーザー」の欄に DB スーパーユーザのアカウント名、“postgres”を入力し、OK ボタンをクリックします。

また、NetSkateKoban マネージャと同一マシンで動作させるホストの設定をします。

「可能」チェックボックスにチェックを入れ、

型 : host

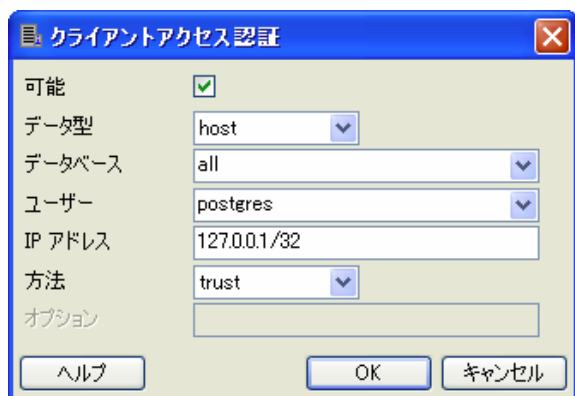
データベース : Koban30DB

ユーザー : KobanUser

IP アドレス : 127.0.0.1/32

方法 : md5

以上のように設定し、OK ボタンをクリックしてください。



ローカルホストからのアクセスの設定



NetSkateKoban マネージャと同一マシンで動作させるホストの設定

- ファイルより保存を選択し、設定の変更を保存します。保存後バックエンドアクセス認証エディタを閉じます。

※まれに、正しく設定が反映されない場合があります。そのような場合は `pg_hba.conf` を直接編集します。
 PostgreSQL をインストールしたディレクトリ内の `data` ディレクトリに移動し、`pg_hba.conf` をテキストエディタで開きます。

ファイル内の以下の場所に次のように入力し保存します。(一番下の部分になります。)

```
# TYPE DATABASE USER CIDR-ADDRESS METHOD
# IPv4 local connections:
host all postgres 127.0.0.1/32 trust
host Koban30DB KobanUser 127.0.0.1/32 md5
host Koban30DB KobanUser 192.168.0.0/24 md5
# IPv6 local connections:
# host all all ::1/128 md5
```

(2)外部から接続可能なアドレスの設定

接続を受け入れるアドレスを指定し、PostgreSQL が TCP/IP 接続を受け入れるようにします。

- pgAdmin の「ファイル」メニューより「postgres.conf を開く」を選択します。
 postgres.conf ファイルは標準で、PostgreSQL をインストールしたディレクトリの `data/` ディレクトリに保存されています。
 保存場所を指定し、ファイルを選択後「開く」ボタンをクリックしてください。
- バックエンド構成エディタが開いたら“listen_addresses”をダブルクリックし設定画面を開きます。



- 「可能」チェックボックスにチェックを入れ、「値」欄に「*」を入力します。
 以上のように設定し、OK ボタンをクリックしてください。

- PostgreSQL サービスを再起動します。
ツリーよりローカルホスト上で稼動している PostgreSQL を右クリックし、サービス停止を選択してください。

■ PostgreSQL (Linux 系)

データベースアクセス認証のための `pg_hba.conf` の編集を行って、端末追加用 CSV 変換ツールを実行する環境からのアクセスを許可します。

(1) 認証の設定をします。

PostgreSQL がインストールされたディレクトリに移動し、`"data/pg_hba.conf"` ファイルを編集します。

```
-----  
$ vi ./data/pg_hba.conf  
-----
```

ファイル内の以下の箇所に、`"KobanUser","Koban30DB"` の設定を追加します。

```
-----  
# TYPE  DATABASE  USER      IP-ADDRESS  IP-MASK      METHOD  
local  all        postgres     
host   all        postgres   127.0.0.1   255.255.255.255 trust  
host   Koban30DB  KobanUser  127.0.0.1   255.255.255.255 md5  
host   Koban30DB  KobanUser  192.168.0.0 255.255.255.0 md5  
-----
```

上記の例では、「`"Koban30DB"`に`"KobanUser"`アカウントで `192.168.0.0/255.255.255.0` のホストからアクセス可能となり、その際に`"md5"`によるパスワード認証で認証」する設定になります。その他、`NetSkateKoban` マネージャと同一マシンで動作させる場合、`VACUUM` を行う場合に必要な設定です。

ここで、端末追加用 CSV 変換ツールを実行する PC からアクセス可能とする必要があります。詳細な設定は PostgreSQL 付属のドキュメントを参照してください。

(2) 設定を適用します。

DB サーバ(`postmaster`)を再起動してください。

(3) 設定を確認します。

PostgreSQL 付属のコマンド:psql を用いて DB 接続のチェックをします。

下記のコマンドで接続を確認してください。

```
$ ./bin/psql -U KobanUser -W -h <DB Server> Koban30DB
```

<DB Server>=DB サーバの IP アドレス

上記コマンド入力後パスワードの入力を促されるので(3)で指定した “KobanPassword” と入力します。
パスワード入力後、以下のメッセージが表示されれば接続成功です。

```
-----  
Welcome to psql 7.3.4, the PostgreSQL interactive terminal.  
Koban30DB=>  
-----
```

Koban30DB への接続を終了する場合には以下のコマンドを実行してください。

```
Koban30DB=>¥q
```

※以下のメッセージが表示された場合はアカウント名、パスワード、DB サーバの指定が間違っている可能性があります。

接続エラー：接続先の DB サーバの指定が間違っている可能性があります。

```
psql: could not connect to server: Cannot assign requested address  
Is the server running on host "192.168.0.0" and accepting  
TCP/IP connections on port 5432?
```

認証エラー：アカウントまたはパスワードが間違っている可能性があります。

```
psql: FATAL: password authentication failed for user "KobanUser"
```

8 端末追加用 CSV 変換ツールの実行手順

端末追加用 CSV 変換ツールを使用して、変換元ファイルより“CSV→DB インポート”用の CSV ファイルを作成する手順を説明します。

※ 端末追加用 CSV 変換ツールが実行されると、NetSkateKoban マネージャが使用するデータベースの解析が行われ、“CSV→DB インポート”用にデータベースと整合性の取れた CSV ファイルを変換・作成します。

その為、端末追加用 CSV 変換ツールを実行中または実行後に、そのデータベースに対してデータ（ユーザ情報、ユーザ利用端末情報等）の登録・編集・削除などが行われると、CSV ファイルとデータベースの整合性が失われ“CSV→DB インポート”実行時にインポートに失敗する可能性があります。

可能ならば NetSkateKoban マネージャを停止するか、または他の NetSkateKoban コンソールから NetSkateKoban マネージャにログインされていないか確認後に本ツールを実行してください。

（ログイン中のコンソールについては NetSkateKoban コンソールより「ツールマネージャ ステータス」を実行して「接続コンソール数」から確認できます。）

■端末追加用 CSV 変換ツールの実行

実行の前に、“UserTerminal.csv”が CSVVIP3U フォルダ内に保存されていることを確認してください。

確認ができれば端末追加用 CSV 変換ツールを実行します。実行には以下の2つの方法があります。

①エクスプローラより（2）の手順でコピーしたフォルダに移動し、CSVImportPreprocessor3u.bat をダブルクリックします。

②またはコマンドプロンプトより（2）の手順でコピーしたフォルダに移動し、CSVImportPreprocessor3u.bat を実行します。

開始時に以下のメッセージが表示されます。

```
--== Started CSV PreProcessor ==--
```

CSV の変換作業が終了すると以下のメッセージが表示されます。

```
--== Completed executing CSV PreProcessor ==--
```

CSV の変換作業後に以下のようなメッセージが表示された場合は変換中にエラーが発生した可能性があります。“エラー対処”の章を参考に、もう一度変換作業を実施してください。

```
--== Some error occurred in converting CSV file. Please refer to the output log('log/')==--
```

変換された CSV ファイルは CSVVIP3U フォルダ内の「KobanCSVforImport」フォルダに出力されます。

9 NetSkateKoban 上でのインポート手順

NetSkateKoban マネージャが使用するデータベースへ、作成した CSV ファイルをインポートする手順を説明します。

※端末追加用 CSV 変換ツールを実行して“CSV→DB インポート”用 CSV を作成してから、NetSkateKoban 上でインポート作業を行うまでの間に、NetSkateKoban コンソールからデータ（ユーザ情報、センサ情報等）の登録・編集・削除は行わないでください。CSV ファイルとデータベースの整合性が失われ、インポートに失敗する場合があります。

- (1) 作成したインポート用 CSV ファイルを“KobanCSVforImport”フォルダごと NetSkateKoban コンソールを実行する PC 上にコピーします。
(コンソールを実行する PC 以外で変換作業を行った場合)
- (2) NetSkateKoban コンソールを起動します。
- (3) インポートを行う Koban マネージャへログインします。
- (4) 「ファイル (F)」メニューより「CSV→DB インポート」を選択します。
- (5) CSV ファイルが保存されているフォルダを指定するダイアログが表示されます。ここで、今回作成された「KobanCSVforImport」フォルダを指定します。
- (6) 「次へ」ボタンをクリックします。
- (7) インポートする項目を選択するダイアログが表示されます。
- (8) ここで、インポートする項目のチェックボックスにチェックを入れ、「インポート」ボタンをクリックします。
- (9) インポートする情報の確認ダイアログが表示されます。表示されている項目を確認後、「OK」ボタンをクリックします。

以上で、NetSkateKoban マネージャへのインポートは完了です。

10 エラー対処

CSV フォーマット変換ツールを実行した際、および CSV→DB インポートを行った際にエラーが発生した場合にご参照ください。

	現象	確認事項	対処方法
1	CSV フォーマット変換ツールを実行しても「指定されたパスが見つかりません。」と表示され、変換に失敗してしまう。	NetSkateKoban コンソールをインストールしたフォルダ内で実行していますか？	本ツールは NetSkateKoban コンソールがインストールされたフォルダ内で実行する必要があります。”6 章:端末追加用 CSV 変換ツールの実行手順”を参考に必要なファイルを上記フォルダ内に移動してから実行してください。
2	入力した行が変換・出力されない	各変換元ファイルの必須項目は入力されていますか？	必須項目は必ず入力してください。入力されていない場合は変換の対象となりません。必須項目については”4 章:テンプレートファイルのフォーマット”を参照してください。
3	CSV フォーマット変換ツールを実行しても、空の CSV ファイルが生成される。	CSVImportPreprocessor3u.bat および koban_csv3u.jar と同じフォルダに以下の変換元のファイルがありますか？ UserTerminal.csv	CSVImportPreprocessor3u.bat および koban_csv3u.jar と同じフォルダに変換元のファイルを準備してください。
4	CSV フォーマット変換ツールを実行しても以下のエラーメッセージが表示されてしまう。 ---= Some error occurred in converting CSV file. Please refer to the output log(log!)=---	出力先フォルダ内の CSV ファイルを別のアプリケーションで開いていませんか？	Excel 等、他のアプリケーションで出力先の CSV ファイルを開いている場合に、このようなメッセージが表示される場合があります。他のアプリケーションを終了させてから再度 CSV の変換を実行してください。
		変換元ファイルはフォーマット通り正しく記述されていますか？	変換元ファイルのフォーマットが正しくない場合に、このようなメッセージが表示される場合があります。実行したフォルダ内の”log/event.log.*”に変換時・エラー発生時のログが記述されています。[ERROR]または[FATAL ERROR]で始まる行を参照して、対処を行ってください。
5	変換された CSV ファイルを NetSkateKoban 上でインポートしようとするとエラーが発生する。	各フィールドのフォーマットや文字数などの制限に沿って入力していますか？	各フィールドのフォーマットや文字数の制限を再度確認してください。フォーマットや文字数については”4 章:テンプレートファイルのフォーマット”を参照してください。
6	CSV フォーマット変換ツールを実行後、以下のメッセージが表示されて CSV ファイルが作成されない。 ---= DBConnection can not be created. Please check database connection setting. =---	データベースへアクセスするための設定ファイル ”config/db.properties”は適切に設定されていますか？	”config/db.properties”の設定が適切にされていないとデータベースへのアクセスが出来ず、CSV ファイルが作成できません。本マニュアル 6 章（3）を参照して、再度データベースの設定を行ってください。
7	CSV フォーマット変換ツールを実行しても、CSV ファイルにデータが出力されない。	UserTerminal.csv 内にデータベースに登録されているユーザが正しく記述されていますか？	本ツールはデータベースに登録されているユーザに対してのみ端末の登録を行うことが出来ず。ユーザの情報については NetSkateKoban 上の「DB→CSV エクスポート」機能を使用してユーザの情報をエクスポートして UserTerminal.csv にコピー/貼り付けを行うと、より便利に編集ができます。
8	端末追加用 CSV 変換ツールを実行後、以下のメッセージが表示されて CSV ファイルが作成されない。 ---=Program is stopped because of too few columns.=---	UserTerminal.csv 内の記述が正しく行われていますか？	入力されたフィールドの数が少ない場合にこのエラーが発生します。CSV ファイル内の各行のフィールド数を確認してください。エラーの発生した箇所の特定については、実行したフォルダ内の”log/event.log.*”に変換時・エラー発生時のログが記述されています。[ERROR]または[FATAL ERROR]で始まる行を

			参照して、対処を行ってください。
9	<p>端末追加用 CSV 変換ツールを実行後、以下のメッセージが表示されて CSV ファイルが作成されない。</p> <pre>--==Program is stopped because of empty user name.==--</pre>	<p>UserTerminal.csv 内に「ユーザ名」が記述されていない行はありませんか？</p>	<p>データベース内のユーザを識別するために「ユーザ名」は CSV ファイル内で必須の項目となります。</p> <p>必ず「ユーザ名」を登録する端末の行に記述してください。</p> <p>エラーの発生した箇所の特定については、実行したフォルダ内の”log/event.log.*”に変換時・エラー発生時のログが記述されています。</p> <p>[ERROR]または[FATAL ERROR]で始まる行を参照して、対処を行ってください。</p>
10	<p>端末追加用 CSV 変換ツールを実行後、以下のメッセージが表示されて CSV ファイルが作成されない。</p> <pre>--==The Program is Stopped (UserName : *** was not found in database.)==--</pre>	<p>記述した「ユーザ名」がデータベース内に登録されていますか？</p>	<p>記述した「ユーザ名」がデータベース内に存在しない場合にこのエラーが発生します。“ユーザ情報のエクスポート方法”を参考に、あらかじめデータベースに登録されている「ユーザ名」を CSV ファイル内に記述してください。</p> <p>エラーの発生した箇所の特定については、実行したフォルダ内の”log/event.log.*”に変換時・エラー発生時のログが記述されています。</p> <p>[ERROR]または[FATAL ERROR]で始まる行を参照して、対処を行ってください。</p>
11	<p>端末追加用 CSV 変換ツールを実行後、以下のメッセージが表示されて CSV ファイルが作成されない。</p> <pre>--==The Program is Stopped (UserName : *** / Two or more same user names exist in database.)==--</pre>	<p>記述した「ユーザ名」が複数データベース内に登録されていませんか？</p>	<p>記述した「ユーザ名」が複数データベース内に登録されている場合、ツールはユーザを特定できず、CSV ファイルの変換ができません。どちらか一方の「ユーザ名」を変更するか、削除してから再度実行してください。</p> <p>エラーの発生した箇所の特定については、実行したフォルダ内の”log/event.log.*”に変換時・エラー発生時のログが記述されています。</p> <p>[ERROR]または[FATAL ERROR]で始まる行を参照して、対処を行ってください。</p>

11 付録

付録として、本ツールによって生成される4個のCSVファイルのフォーマットを以下に示します。

NetSkateKoban上で“CSV→DBインポート”機能を用いてインポートを行う際には、各CSVファイルが以下のようなフォーマットに従っている必要があります。

また、赤色で網掛けされているフィールドに関しては入力が必要となります。

(注) “スペース挿入”は入力する文字と文字の間に空白文字(スペース)を挿入することを指します。

■GLocation.csv : 「場所」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
GLocID	場所 ID	半角数字	不可	2 ~ 2147483647
DisplayName	場所の名称	“¥”記号以外の文字列	可	255 文字
Path	場所の階層表記	指定なし (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■NLocation.csv : 「ドメイン」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
NLocID	ドメイン ID	半角数字	不可	2 ~ 2147483647
DisplayName	ドメインの名称	“¥”記号以外の文字列	可	255 文字
Path	ドメインの階層表記	指定なし (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■Organization.csv : 「所属」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
OrgID	所属 ID	半角数字	不可	2 ~ 2147483647
DisplayName	所属の名称	“¥”記号以外の文字列	可	255 文字
Path	所属の階層表記	指定なし (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ Terminal.csv : 「ユーザ利用端末」

フィールド	説明	フォーマット	スペース 挿入	文字数 制限
MACAddress	端末の MAC アドレス	コロン「:」で区切った 6 フィールド、2 桁の 16 進数	不可	17 文字
TerminalName	端末の名称	指定なし	可	255 文字
TerminalDescription	端末の説明等	指定なし	可	無し
AddressAllocation	IP アドレスの割当方式	“Dynamic”、もしくは”Static”を指定		
AllocatedIP	端末の IP アドレス	ドット”.”で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数。 複数登録する際には、全体を「”」で括って IP アドレスをカンマ“,”で区切ってください	不可	無し
UserID	<u>User.csv ファイルの ID フィールド</u> を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
OrgID	Organization.csv ファイルの OrgID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
GLocID	GLocation.csv ファイルの GLocID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NLocID	NLocation.csv ファイルの NLocID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

※ “CSV→DB インポート” 機能・各 CSV ファイルのフォーマットについてのさらに詳細な説明については NetSkateKoban リファレンスマニュアル (管理編) 内の「CSV→DB インポート」の節をご参照ください。